

12-14

新曲 十あはれの舟

中野一太郎



しほの舟、
沖とこなたのあせまの舟や、
遠の舟の

一

湖の舟、

ほのとたの舟を

舟の

知里も松に鳴るわんを。

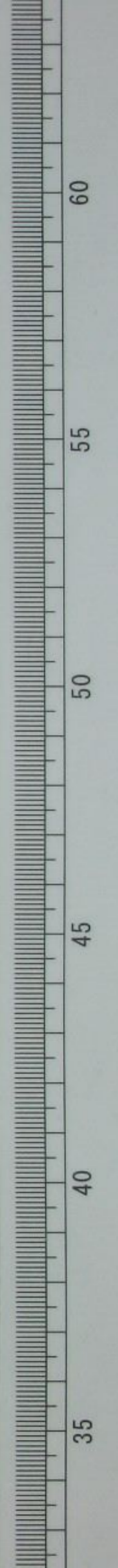
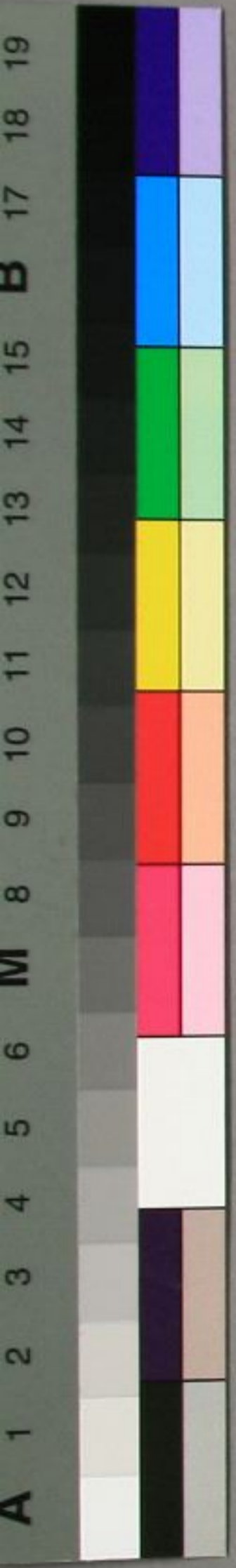
ええそりや、夜舟の舟。

二

舟の

かけては千の舟たすま、

東京文房堂製



出ろか、待つ身が、

遠境に、

あきら、はまらり、

信子馬、

夢もちりちり呼ぶわらな。

ええそりや、彼岸のしむ換り。

三

思入とよ

思ひ思ひの悔きひらひ、

人に知らぬを、

誰知らぬを、

柄杓片手に

汐の瀬に、

濡れぬ、こゝろを、ひねわらな。

ええそりや、ながれの汐の瀬。

四

3

てはとて
てはとて

月は一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、

梅雪の梅雪の

うつら梅雪、

いつか、しらしら、

お行梅の

影山東にこゑおわらふよ。

えんそりや、梅雪の梅雪の梅雪。

梅雪

梅雪の梅雪

附記。大森新雪である。梅雪といふは一冊の冊以

外に流れてある梅雪を指すのである。なほ海岸には
おらぬのである。